

ひめまつ

69



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ
目次
第六十九号

表紙……千葉 愛美 題字……石川 木魚
校歌
生活目標

グラフ「学園の四季」

随想

戦後七十年と日本の復興
本校の戦災復旧と「ひめまつ」の創刊 …………… 校長 須賀 淳 …… 1

論説

人口減少に立ち向かう …………… 副校長 須賀 英之 …… 4

特集1

第二グラウンドが全面人工芝に！ …………… 7

特集2

中学・高校合同秋季大運動会開催！ …………… 8

特集3

サッカー部・野球部・吹奏楽部・チアダンス部座談会！ …………… 10

映し鏡としてのトイレ	三年	四組	菅生	崇史
トイレットペーパーがない	三年	六組	古賀	陸実
トイレという『生活の顔』	三年	二十三組	室井	里美
魅せるトイレ	二年	三組	寺地	悠
私達が考えるトイレの在り方	一年	三組	加藤	遥奈
生まれ変わったトイレ	一年	十九組	麦倉	千暖

平成二十六年 校内読書感想文コンクール入賞者

心に強く響くもの 校内読書感想文コンクール入賞作品

【第二学年の部】 校長賞

第一位 齋藤 孝著「折れない心の作り方」を読んで	三年	七組	添野	純
第二位 KOKORI 著「魂守りコトバ」を読んで	三年	三組	高倉	茉佑
第三位 石田 衣良著「美丘」を読んで	三年	七組	稲沢	莉南

【第一学年の部】 校長賞

第一位 宮崎 市定著「科拳」を読んで	二年	二十五組	小倉	賛子
第二位 辻村 深月著「ツナグ」を読んで	二年	一組	神尾	ひかり
第三位 香川 宜子著「アヴェ・マリアのヴァイオリン」を読んで	二年	一組	荒井	陸人

【第一学年の部】 校長賞

第一位 香川 宜子著「アヴェ・マリアのヴァイオリン」を読んで	一年	五組	小磯	詩織
第二位 羽生 善治著「決断力」を読んで	一年	二組	中村	瑞歩
第三位 門倉 紫麻著「We are 宇宙兄弟 宇宙飛行士の底力」を読んで	一年	二組	吉野	匠

あとらんだむ 生徒作品集

【一年間の反省と二年生になる抱負】

【二年間の反省と最上級生になる抱負】

【随想】 【短歌】 【俳句】 【写真】

旧・一年	六組	豊田	桃子
旧・一年	十二組	鈴木	雄貴
旧・一年	二十三組	渡邊	皓大
旧・一年	二十五組	小倉	賛子
旧・二年	四組	金子	慎
旧・二年	七組	倭文	萌
旧・二年	二十五組	古谷	真唯

旅行記

普通科応用文理コース・生活教養科 第五回イタリア海外研修旅行
第十四回調理科フランス海外研修旅行で学んだこと

修学旅行の思い出

若葉と笑顔の輝くとき

Daily trip

友情深まる一日旅行

一日旅行『共立女子大学』

一日旅行を通して

深い絆、一日旅行

一日旅行に参加して

海と魚と担任と

青春に刻む一日旅行

二年	十二組	山北	稚奈
二年	二十四組	佐橋	優花
二年	九組	川上	匠
二年	三組	山根	望
二年	十一組	峯	奈津貴
二年	十六組	吉田	瑠那
二年	十七組	阿久津	瑠見
二年	二十組	渡邊	晴加
二年	二十三組	森田	菜々美
二年	二十五組	上野	遥佳
一年	二組	日高	衣織
一年	三組	中村	瑞歩
一年	三組	工藤	優作

わがホームルームの紹介

三年・二年・一年

委員会・部活動報告

風紀交通安全・図書・美化・茶道・華道・書道・理科・服飾手芸・囲碁将棋・弓道・演劇・写真・吹奏楽・合唱・
硬式野球・女子サッカー・男子サッカー・卓球・水泳・女子バレー・男子バレー・硬式テニス・男子ソフトテニス・
女子ソフトテニス・バドミントン・男子バスケット・女子バスケット・柔道・剣道・スポーツチャンバラ・応援団・
チアダンス・JRC・インターアクトクラブ

学園ニュース

.....

附属中コーナー

.....

この一年間のおもな活躍・クラス紹介・行事紹介・作品集コンクール入賞作品・写真で見る中学校生活

宇都宮共和国・宇都宮短期大学コーナー

.....

宇都宮共和国／シテイライフ学部 子ども生活学部

イベント・トピックス・卒業生メッセージ・インターンシップ・

就学支援・スカラシップ・就職・進学指導

宇都宮短期大学／音楽科・人間福祉学科

教育実習生、母校の教壇に

.....

数 学 科	横浜国立大学	東 城
地 歴 公 民 科	宇都宮大学	植 木
社 会 科	宇都宮共和国	八 木
		一 樹
		花 乃
		拓

平成二十六年 生徒会報告

.....

主な大学合格者数一覧(過去三年間) 主な就職内定状況(平成二十六年度)

編集後記

編集委員長・菅生 崇史

.....

校史と校章

学園の四季



入学式
H26.4

新入生～高校生活のはじまり～



誓いの言葉～期待に胸が膨らみます～



女子サッカー



女子バスケット

スポーツ
フェスティバル
H26.6



男子バスケット



卓球

合唱
コンクール
H26.7



美しいハーモニーの響き



Let it go ～笑顔のままで～

創立
114周年記念
学校祭
H26.11

須賀学園創立114周年を記念した中学・高校合同の学校祭が11月8日に大勢のお客様をお迎えし、本学園教育会館と須賀栄子記念講堂大ホールにて盛大に行われました。

各科・各クラス・各部ごとに日頃の勉強や練習の成果を披露するとともに、絆を深める1日となったようです。



オープニングセレモニー(プラスバンドの演奏)



チアダンス部のヒップホップダンス(野外ステージ)



私たちの自信作を召し上げ!



音楽科によるオペレッタ上演(須賀栄子記念講堂大ホール)



おいしいたこやき焼きました♪

中学・高校合同 秋季大運動会

H26.10

台風一過の秋晴れの下、10月15日（水）に栃木県総合運動公園陸上競技場にて、中学・高校合同の秋季大運動会が開催されました。3年に1度の運動会は、終始熱気にあふれていました。



さあ、運動会の始まりです



私たちのチームワークを見て下さい



次々に入れ！



声かけあって1・2、1・2



力強く宣言しました



高い壁も乗り越えてみせます



ゴールテープ前は悲喜こもごも

修学旅行
in 沖縄
H26.12



白い砂浜でジャンプ!

本格的な冬を前に、2年生は修学旅行に出発。現地では、12月とは思えない温暖な気候の中で、さまざまな体験を通して、友情を深めてきました。



美ら海水族館～大迫力のジンベイザメ～



ひめゆりの塔で献花



エメラルド色の海をバックに



エイサー



天然記念物・玉泉洞前にて



紅型



やちむん

随想

戦後七十年と日本の復興

本校の戦災復旧と「ひめまつ」の創刊

校長 須賀 淳



戦後七十年の意義

今年(2025年)は戦後七十年、安倍内閣は新しい「首相談話」を出すことを表明しました。それに対してマスコミは、それぞれに論説を掲げて、さきの村山談話や河野談話で問題となっていた近隣諸国との関係がどう述べられるか喧しく論じています。

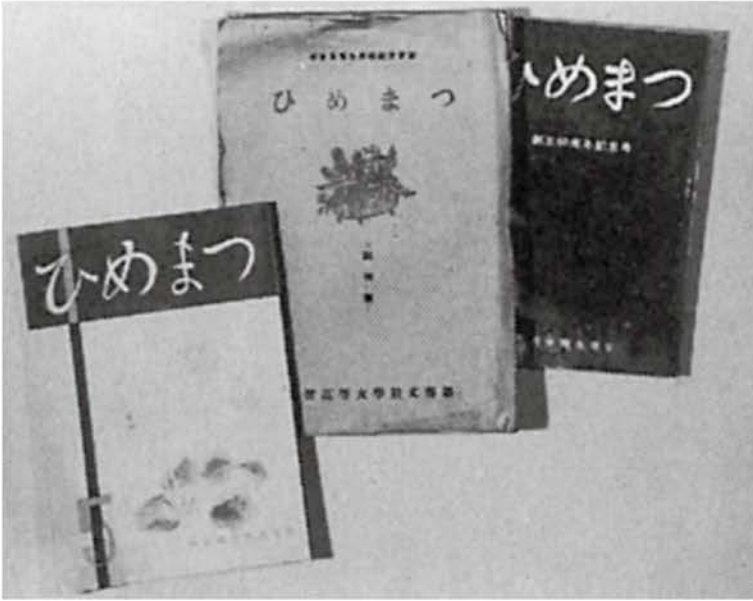
平成二十七年(二〇一五)は、昭和二十年(一九四五)八月十五日の終戦から七十年、敗戦日本にとって大きな節目の年です。と同時に、本校にとっては昭和二十年七月十二日の宇都宮大空襲によって全校舎が焦土と化した戦後七十年の大きな節目でもあります。さらに私自身にとっては、学徒出陣により、祖国を守るためにペンを捨てて銃をとりましたが、終戦で無事故郷に帰ることができた忘れることのできない年でもあります。

昭和二十年九月に軍隊から戻り、直ちに父を扶けて本校の戦災復旧のために働きました。軍隊がなくなつて空いた兵舎の仕上げを受け、授業を再開し、私もみずから教壇に立ったのです。それから戦後七十年、戦災から立派に立ち直った本校で、私は今日も二七〇〇名の生徒の皆さんと平和に楽しく過ごしています。

「ひめまつ」の創刊

文化国家を目指して復興の第一歩を踏み出した日本ですが、戦災のために何もなくなくなった本校において、早くも終戦の翌年に生徒会誌「ひめまつ」が創刊されたことは、特筆に値することでしょう。以来七十年間、「ひめまつ」は一度も休むことなく毎年刊行されています。

戦争の被害を受けたひとりひとりが力を合せて、明治三十



創刊号の生徒会誌「ひめまつ」(中央)—現在と同じ大判だった。

三年創立という伝統を持った本校を立派に再興しようと取り組み、生徒と職員が心をひとつに目標をたてて進もうとしていたかは、生徒会誌「ひめまつ」が昭和二十一年に早くも発刊された事実で分ります。物資不足のこの時期ですから、創刊号はわずか三十ページ、粗末な紙ですが、そこには新しい学校づくり、否、日本という国を盛り返すために、人間の心が潤いとゆとりを持ち、毎日の生活をじっくりと見つめ、モノ以外がもっている貴さを感じさせようという意気込みが溢れています。

それは、ちよūd須賀榮子先生が学校を創立した時に抱いた志と同じといってもよいのではないのでしょうか。

敗戦の春や淋しき松飾り

四年 伊藤 照子

疎開してせまき我がやに蚊帳かやひろし

四年 岩松 和子

停電に焚火囲んで夕餉ゆうげかな

二年 平井 セツ

創刊号の「ひめまつ」に掲載されている生徒たちの文芸作品には、ようやく軌道に乗りつつある学園生活の中にも、やはり戦争の与えた影が色濃く残っているようです。

創刊号には私も投稿しています。学徒出陣から復学した東大で、宮澤俊義教授(勅選貴族院議員)の講義で聴いてきたばかりの日本国憲法(国会で審議中)について、「新憲法の基本原理」と題して「国民主権」「基本的人権」「文化国

家」を特色として上げ、明治憲法と比較して論じています。いま読み返してみると、新しい体制に寄せる期待の大きさを感ぜさせますが、「自由放任では弱肉強食となるから、弱者を救わんがためにある程度個人の自由を制限し、そして個人の自由を実質的にするというのがこの意味の文化国家である」といささか力んで書いているのがなつかしい。生徒とともに、新しい日本を文化国家としてつくっていききたいという思いを込めたつもりでしょう。

「ひめまつ」創刊という喜びにあふれている本校では、クラブ活動も活発となり、後に全国制覇トリプルクラウンの金字塔を打ち立てたソフトボールをはじめ、卓球、庭球、排球（バレーボールのこと、バスケットは文字どおり「籠球」といった。）、文芸、英語、歴史の七部が早々と旗上げし、他の学校と早くも交流試合や発表会を開いています。兵舎を改造した教室とそれに続く校庭、一球一打にわく歓声や歌声など、「ひめまつ」を手にとると、その状況が目の前に大きく浮かんできます。

「ひめまつ」という誌名は校歌の一節からとったことはご承知のとおりです。校歌の解説には「風雪にもめげずに毅然として千古変わらぬ緑色をたたえる姿は、これからの進路に何らかの示唆を与えてくれるのではないか」と名付けた理由がわざわざつけ加えられています。現在はカラー化、大判化され、分厚くなって毎年発行されている「ひめまつ」を手にとる時に、この解説の言葉を思い起すのも意義があるのではないのでしょうか。半世紀以上も前に先輩たちが心をひとつに

して研鑽に励んだ証^{あかし}としてこの「ひめまつ」を大切にしたいものです。本校舎の前庭に植えられている数本の「ひめまつ（姫松）」は、小さな苗木のような力しかなかった本校が見事に復興した様子を見守り、そして今日をやさしく包んでくれています。「ひめまつ」こそ、皆さんのような未来豊かな若者そのものを象徴しています。



70年前の本校一戦災により全校舎を焼失し、旧軍隊の兵舎に移る。(昭和21年—1946—)
現在は鉄筋コンクリート造の立派な校舎に生まれかわっています。

論説

人口減少に立ち向かう

副校長 須賀英之



2040年の栃木県の人口

栃木県の次期プラン策定のための懇談会が、昨年末に発足しました。私を会長に、各界の有識者、業界団体、自治体、議員に加え、公募された一般県民の方々に構成されるこの会議では40名の委員から一様に、人口減少にどう対処するかという課題に大きな関心が寄せられました。2回にわたる討議の結果、県の施策として「時代を拓き、地域を支える人を創る」ことを基本に据え、成長と豊かさや安心安全、魅力ある県土づくりなどを目標に重点戦略を立案することになりました。

生徒の皆さんが、社会の中で最も中核的な役割を果たす40歳代、2040年、私たちの栃木県はどうなっているのでしょうか。

県の人口は、2005年の2002万人をピークに減少に転じており、現在の197万人が2040年には164万人と、33万人も減ることが予想されています。これは、県内13市（宇都宮市を除く）のうち3つ以上の市の人口が消滅してしまう計算になります。

問題は人口減少だけでなく、人口構成にも表れます。生産年齢人口（15～64歳）の全人口に占める割合が現在の64・5%から2040年には53・4%となり、働く人1人がお年寄りや子供を1人ずつ、社会的にも経済的にも支えることになります。働く世代の人口（現在120万人）は、これからの25年間で県全体の人口減と同数の33万人減少し、現在から3割近くも減り



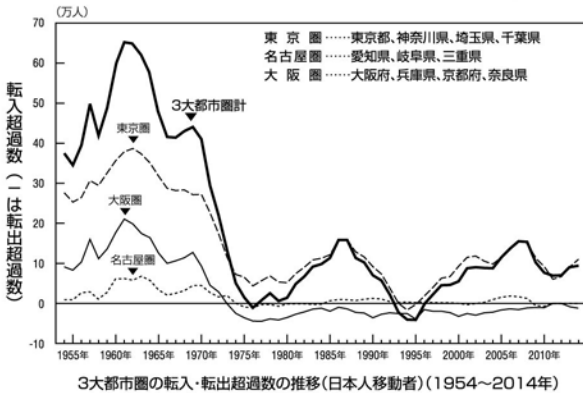
87万人になってしまおうのです。皆さんは、それだけ世の中から期待され、大切にされる存在であり、同時に皆さんの肩には、社会的責任も重くのしかかってくることとなります。

人口減少の3つの要因

こうした人口減少の要因には、①少子化（出産率の低下）、②東京圏への人口流出、③平均寿命の長寿化（高齢化）、の3つがあげられます。

出生率（合計特殊出生率＝一人の女性が一生に産む子供の平均数）は、以前は1・8から2近くありましたが、現在は1・43と全国平均並みで横ばいにとどまっています。統計上の計算では2・07以上でないとい人口減少は必至となりますし、仮に今2・07に回復しても人口が下げ止まるのは50年後になります。本県の生涯未婚率は現在、男性20・3%、女性7・5%です。特に男性の未婚率は30年間で8倍に急増して、現在では5人に一人が結婚しないのです。女性が、経済的な不安や、子育ての負担から出産できないということがないように、これまで以上に社会全体でお母さんを支える施策の充実が求められています。フランスやスウェーデンでは国を挙げたの施策により、近年、出生率が回復しています。

東京圏への人口の転出は、一時、緩和していましたが、地方から大企業の工場の海外移転が進んだことなどから再



び増勢を示しています。東京都の出生率は1・13と極端に低く、1を割っている区もあります。皆さんが進学や就職で東京に行き、将来、地元に戻ってこなければ、栃木県だけではなく日本全体の人口減少に拍車がかかってしまうことは、この数字からも読み取れます。

首都直下型地震への備えとしても、東京一極集中を是正する必要があります。

中期的にみると高齢化も人口減少の要因になります。過疎の地方では、すでに高齢者数も減少しています。高齢者の増加は、医療や社会保障の社会的費用により財政を逼迫しますから、子育て支援や子供の医療に係る費用などにも影響があります。

栃木県の平均寿命は、男性79・1歳、女性85・7歳で、過去30年間で7歳近く伸びています。幸い、健康寿命は全国11位（男性70・7歳、女性74・9歳）と比較的長く、元気な高齢者が多いことは喜ばしいことです。何らかの形で、社会に参画して若い世代のために貢献していただければと思います。

消滅可能性都市とは

過疎の小規模な地域では、今後、若い女性がほとんどいなくなってしまうので、人口が急速に減少します。自治体の財政悪化もあり、教育や介護など生活関連のサービスが受けられず、町そのものが消滅してしまう懸念があります。

増田寛也元岩手県知事が主宰する日本創生会議では、2040年までに20〜39歳の女性が5割以上減り、人口が1万人以下になってしまう「消滅可能性が高い自治体」が、全国で523（うち栃木県では2）、全体の3割もあると昨年発表して話題になりました。

国土交通省の「国土のグランドデザイン」によれば、2050年には全国で約6割の地域で人口が半分以下になり、2割が人の住まない地域になるとのことです。

選ばれる栃木県のために

では、栃木県に明るい未来は無いのでしょうか。高度成長期には大企業の工場を誘致するために、高速道路、新幹線、工業用水など企業の生産活動に有益な基盤整備を行いました。しかし、近年に工場や研究所が本県に立地した事例を見ると、「大消費地である東京圏に近い」、「災害が少ない」、「地元で大学や専門人材を輩出する教育機関がある」、「医療機関が充実している」、「自然歴史や文化芸術にふれたり買物にも便利」といった、マーケティング、リスク管理、従業員の生活の質など総合的な環境に優れていることが決め手になっていることがわかります。

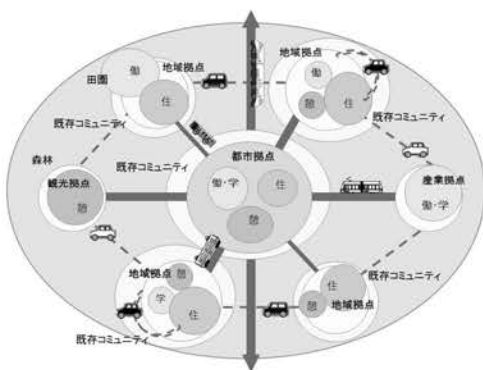
2013年の東日本大震災では、これまで当たり前だと思っていた電気やガソリンが不足したり、交通機関に障害がおこるなど、大きな影響があり、これを契機に世の中の考え方が変わりました。

B級グルメやゆるキャラブーム、地産池消やスローフードの盛り上がりはなぜ起こっているのでしょうか。各地域が、全国一律にミニ東京を目指すのではなく、それぞれの地域の良さを見直して、固有の優れた地域資源を情報発信していくことが重要だと気がついたからです。

栃木県は、優れた立地条件、産業や生活の基盤、自然環境や文化、観光資源に恵まれており、これからの人口減少の時代に、人や企業から選ばれる地域として発展できるものと、私は確信しています。

地域特性を生かした取り組み

宇都宮市では「ネットワーク型コンパクトシティ」という街づくりを進めています。これまで広がる一方だった市街地を、いくつかの地域に集約して、行政サービスや医療教育福祉、商店街をコンパクトにまとめ、利便性を高めるとともに効率化を図り、交通や情報ネットワークを整備して周辺地域を支えていくというものです。市の東西を結ぶ基幹公共交通機関として



LRT（次世代型路面電車システム）の整備も始まっています。宇都宮市では、中心市街地活性化基本計画をこの3月に改訂して、私が会長を務める官民合同の協議会も協力して、地域の拠点となる再開発を推進しています。

那須塩原、大田原、那須、那珂川の4市町では「那須地域定住自立圏構想」の実現を目指しています。これは、4つの自治体がそれぞれの強みを生かして連携して、観光、

環境、公共交通の3分野に集中的に取り組み、居住環境を整備していくものです。

県では「フードバレーとちぎ」として、農産物の6次産業化（加工食品や観光への活用）や海外展開を進めています。

国でも、昨年から、「まち・しごと・創生法」を施行して、就労・結婚・子育て支援や地方の人口減少に本格的に取り組む態勢を整えました。

次期プランを検討するにあたり、県では昨年6月に、高校生1100名にアンケートを実施し、本校生徒にも協力してもらいました。その結果によれば、栃木県に愛着や親しみを感じている人は全体の72%を超えていました。また、将来も栃木県に住みたいと答えた人は54%（住みたくない16%、わからないが30%）で、大変心強く思いました。

生徒の皆さんには、10年後、20年後の栃木県の姿を展望して、自分自身の将来像をしっかりと描き、今やるべきことに積極的に取り組んでいただくことを願っています。

※人口の数字は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2013年3月）」より。

第二グラウンドが全面人工芝に！



教育会館西側にある第二グラウンドが、全面人工芝のグラウンドとして生まれ変わりました。敷かれているのは、JFA（日本サッカー協会）公認およびFIFA（国際サッカー連盟）II Star規格に該当するドイツ・ポリタン社製の最高級人工芝です。公式戦にも使用可能な広さになったほか、ナイター照明設備も備えられた最新のグラウンドとなりました。

六月十七日オープニングセレモニー時に、日本テレビ高校生クイズ栃木プレ大会が行われ、アナウンサーの葉山エレヌさんとお笑い芸人流れ星さん三人の楽しい進行のもと、会場は大いに盛り上がりました。

このグラウンドでは体育の授業が行われるほか、放課後はサッカー部のトレーニングが行われています。本校サッカー部は、昨年十一月に行われた全国高校サッカー選手権大会栃木大会で準優勝に輝くなど、県内有数の強豪校相手に堂々と渡り合う力をつけてきました。練習環境の充実で、今後、さらなる活躍が期待されます。



中学・高校合同秋季大運動会開催!



台風一過の秋晴れの下、去る十月十五日（水）に栃木県総合運動公園陸上競技場にて、中学・高校合同の秋季大運動会が開催されました。三年に一度の運動会は、数ある学校行事の中でも、宇短附生が最も楽しみにしている行事です。多くの保護者にも御来場いただき、スタンド席も満席となり、終始会場は熱気にあふれていました。

まずは、入場行進です。各科・コース・クラスが工夫を凝らし、息の合ったパフォーマンスを見せてくれました。

続く開会式では、吹奏楽部の応援歌にあわせ、応援団やチアダンス部によるパフォーマンスも披露され、会場の期待も高まります。

競技が始まると、選手も応援も真剣そのもの。スタンドからの熱い声援を受け、持てる力を発揮します。各競技ではコースごとに順位を競い合いますが、結果は次の通りです。

〈結果〉男子 一位 普通科応用文理コース
 二位 普通科特進コース
 三位 調理科

女子 一位 生活教養科
 二位 調理科
 三位 普通科進学コース
 普通科応用文理コース

また、運動会の華、集団演技も行われました。皆で練習を積み重ねてきた成果を発揮する時です。動きがそろった際に観客席から大きな拍手がわきおこります。女子の色鮮やかでたおやかな演技と、男子の力強い演技のコントラストが印象的でした。

次の運動会は三年後。今度は卒業生として、後輩を応援しに来てください。





趣向を凝らした入場行進



歓声を背に前へ!前へ!



心も足なみも一つ



「エッサッサ」と力みなぎる



練習の成果が花開く日

特集

3

サッカー部・野球部・吹奏楽部・チアダンス部座談会!

年々進化を遂げている各部活。サッカー部の県大会準優勝（二月）や野球部の公式戦初勝利（九月）の興奮は記憶に新しいことでしょう。今年はチアダンス部が創設され、応援もさらに熱くなりました。

今回は、サッカー部、野球部、チアダンス部、吹奏楽部のみなさんに、これまでの活動や今後の抱負について語ってもらいました。これから、各部の活躍にご期待ください。

司 会…菅生 崇史（ひめまつ編集委員長）

サッカー部 部長…柳澤 佑介

野球部 部長…伊坂晃次郎

吹奏楽部 部長…大久保恵里・学生指揮者…見川 泰月

チアダンス部 部長…高橋 海有

菅 生…本日司会を務めます編集委員長の菅生です。よろしくお願います。まずは、サッカー部の県大会準優勝、野球部の公式戦初勝利、おめでとうございます。それぞれに今年の活動の感想をお願いします。

柳 澤…人工芝グラウンドの完成や、ナイター設備の設置で効率があります。今まで以上に力を入れて練習することができました。ただ、昨年の先輩方がいたときの結果を、自分たちだけでは越すことができなかったことは心残りです。

伊 坂…野球部は創部してまだ日が浅く、自分たちの代では一勝をあげることはできなかったことがとても悔しいです。しかし、自分たちが引退してすぐ、後輩たちが公式戦で一勝したことはいれしかったです。悲願をこめてバトンを渡したかいがありました。

菅 生…始業前の早い時間や放課後遅い時間も練習に励んでいるようですが、練習は厳しいですか？

伊 坂…平日は国本にある栃銀グラウンド、週末は共和大の那須キャンパスで練習していますが、帰校するのは八時位です。新設部なので練習方法が完璧には確立していませんことから、練習方法をめぐって部員同士の対立が起こることもあり、しよっちゅう顧問の先生に怒られていました。練習のつらさよりも、部長として部をまとめきれないことに歯がゆさを感じてきました。

柳 澤…サッカー部も平日はもちろん、週末もほとんどが練習試合なので埋まっています。

菅 生…ありがとうございます。次に、吹奏楽部、チアダンス部の方いかがいます。サッカー部、野球部の大会では皆さんの熱



▲後列左より／柳澤君、伊坂君、菅生君、見川君・前列左より／高橋さん、大久保さん

意ある応援が印象的でした。応援する中での感想などありませんか？

大久保…運動部の応援はこれまであまりしたことがなかったのですが、とにかく、スタンドを盛り上げて、心一つにした応援ができるように頑張りました。

見川…どちらの部も、遅くまで練習していることを知っていたので、その姿勢に失礼にならないように、また、試合をしている人たちの気持ちに負けないように演奏しました。

高橋…限られた時間で、たくさん曲を練習した上で、吹奏楽部との合同練習までこぎつけなくてはならず、最初は不安でいっぱいでした。しかし、プレッシャーがあつた分、気持ちが引き締まり、いいパフォーマンスにつながれたと思います。

菅生…吹奏楽部やチャダンス部は応援以外の分野でも大活躍の一年でしたね。今年一番力を入れたことはなんですか？

大久保…卒業生と混成で出場していた吹奏楽コンクールに、昨年から高校生だけで参加しています。今年は「高校生だけで東関東コンクール出場」の目標を実現することができました。田淵先生の熱心なご指導のもと、厳しいご指摘に涙を流すこともありましたが、そんなときには、根本先生の明るなお人柄に元気づけられ、ここまで到達することができたのだと思います。両先生には感謝しても感謝しきれません。

見川…高校生だけで練習してみて、当初はどう部活をもっていくか

不安でした。でも目標を達成し、東関東で銅賞を獲得できたことで一つの歴史をつくれたと自負しています。

高橋… 一日体験学習、学校祭、運動会などの学校行事にも力を入れてきたことはもちろんです。また、新人戦にも出場しました。創部一年目であり、核となる三年生も自分一人。チームワークが課題でしたが、練習しているうちに一つになっている実感をもてるようになりました。パフォーマンススタイルはやはり「デビューダンス」。はじめての出場にしてはレベルが高いと評価をいただきました。自信となりました。

菅生… 最後に、部活としての今後の抱負や、後輩たちに期待することを一言ずつお願いします。

伊坂… 秋の大会で一勝し、今後の活動に期待がつながりました。しかし、野球は甲子園につながる夏の大会が本番です。まずは県ベスト8を目標に頑張ってください。そのためにはやる気と練習量がまだまだ足りません。気合を入れていきましょう。

柳澤… 小さな目標を積み上げて大きな成果につなげてください。一月の県大会準優勝の記録を塗りかえられるよう期待しています。僕たち一年生よりも一・二年生は部員数も多く活気があります。全国に行ける力をつけてほしいし、つけられると思っています。応援しています。

大久保… 新しく入ってくる一年生が「入りたい」と思ってくれるような部活になってほしいです。そのためにも、昼休みコンサートや一日体験学習など学校行事での演奏活動にも力を入れてみてください。ぜひ、「吹奏楽部はこんな活動をしているんだ」

ということを在校生の皆さんに知ってもらいたいです。

見川… よかったところは残し、改善したほうがいいところは改善するといったメリハリをつけ、成長してください。全国について結果が残せるような練習を心がけましょう。

高橋… 今後の課題はチアの基礎固め。平面的な動きだけでなく、立体的な動きをマスターしてください。それと、顧問の中山成子先生がおっしゃった「部活と趣味は違う」という言葉をかみしめ、真剣に取り組んでほしいと思います。普段は上限関係がはっきりしているチアダンス部ですが、パフォーマンスをするときにはみんなの心が一つにならなくてははいけません。心ひとつに素敵な演技を！

菅生… ありがとうございます。各部活の今後のさらなる活躍に期待しています。



画：3年17組 井上 瑠璃

学園ニュース

第二十回 東関東吹奏楽コンクールに

出場しました

2014年(平成26年)9月7日

挑戦2年目 成長できた 宇都宮短大付、銅

卒業生と混成で「職場・一般」の部に出場していた宇都宮短期大学付属高は、昨年から高校A部門に挑戦している。今年は初めて東関東大会に進み、銅賞を受賞した。

応援に駆けつけた昨年の部長、坂本七海さん(18)は「一般部門のときは卒業生に頼ってしまって、自発的に取り組む姿勢がなかった。私たちの代が築いたものを引き継いで、今年もがんばってくれた」と話す。

夢の大舞台。気負いがあったという。「東関東大会に出ると決まった時、壁は巨大で恐ろしいと感じた。賞の色よりも、普段の練習で積み重ねたものを本番で発揮することを目標にしてきた」と、学生指揮者でコントラバスの見川泰月さん(3年)は言う。部長を務めるトランペットの久保恵里さん(3年)も「今年の4月を百点満点でゼロとしたら、県大会の8月上旬は40点。さらに課題を克服して、今日は70~80点くらいまで成長できた」と、表情は晴れやか。挑戦を始めてまだ2年。これからどんどん成長していく。(岡野彩子)



2014年9月7日(月)朝日新聞

九月六日に行われた第二十回東関東コンクールに、本校の吹奏楽部が初出場しました。本校の吹奏楽部は昨年から高校A部門へ挑戦してきました。

栃木県吹奏楽コンクール高校A部門で金賞を獲得し、夢の大舞台である東関東コンクール。結果は銅賞でしたが、部員のみなさんは「今回の出場で成長し、来年の目標が見えた」と晴れ晴れしい表情でした。右の新聞記事は、「朝日新聞に掲載された記事です。」

吹奏楽部のみなさん、来年のコンクールに向けてこれからも毎日の練習に励んでください。

須賀学園クリスマスコンサートが

開催されました

毎年恒例のクリスマスコンサートが、十二月十六日(火)に須賀栄子記念講堂大ホールにて開催されました。

この行事は学園に学ぶ学生・生徒一同が出演する年一回の演奏会で、保護者の方々にもご鑑賞いただきました。演奏終了後、調理科特製手づくりパウンドケーキが鑑賞者全員にふるまわれ、なごやかに楽しいひとときとなりました。たくさんのご来場、ありがとうございました。



合唱部の発表です。踊りも交えながら会場を盛り上げました。



大きなクリスマスツリー。



音楽科による合唱です。



終了後、調理科特製のおいしいパウンドケーキも配布されました。



吹奏楽部によるサクソフォン5重奏です。



第1位
「大谷石風フルーツケーキ」

調理科2年 小林 真菜・荒川 真帆
八旗 加奈・島田 朝美



敢闘賞「咲くや この花」

調理科1年 久保 明未・井川 茉耶
坂本 幸香・高橋 由衣
藤田 果歩



敢闘賞「Pride of 宇都宮」

～感謝と期待を込めて～
調理科2年 小島 来夢・中村 美穂
指首 歩美・松田 英樹

「住めば 愉快だ 宇都宮」をテーマに宇都宮の良さをアピールすべく応募された七十一チームの中から、選ばれた五チームが技と味を競いました。本校からは三チームが出場し、受賞作品は左記のとおりです。

「見事第一位を獲得しました！」
「Cooking Girls」の作品「大谷石風フルーツケーキ」

第一回 宇都宮市高校生スイーツコンテスト 第一位を獲得

調理科二年 奥山 瑠夏さん「とちむすび コンテスト二〇一四」で最優秀賞に輝く!

J Aグループ栃木/J A全農とちぎが主催した「とちむすびコンテスト二〇一四(平成二十六年十二月二十三日(火・祝)開催)」において、応募総数五四五点の中から、奥山瑠夏さん(調理科二年生)のおにぎり「ネギ豚いなり」が最優秀賞に輝きました。また富岡卓太朗君(調理科一年生)が優秀賞、青木瑞季さん(調理科二年生)がアイデア賞を受賞しました。

奥山さんの作品は今年四月からJR宇都宮駅と大宮駅の両駅で駅弁として販売される予定です。



表彰状を手に、青木さん(左)、奥山さん(中央)、富岡君(右)



最優秀賞

「ネギ豚いなり」

調理科2年 奥山 瑠夏さん

優秀賞
「鮎飯稲荷寿司」
調理科1年
富岡 卓太朗君



アイデア賞
「霧降高原牛の
味噌煮込みおむすび」
調理科2年
青木 瑞季さん



男子ソフトテニス部 関東制覇

平成二十七年一月十七日(土)、十八日(日)に茨城県ひたちなか市の総合体育館で開催された「第四十回関東高等学校選抜ソフトテニス大会(男子団体)」において、本校の男子ソフトテニス部が初優勝を果たしました。栃木県勢としても関東制覇は二十五年ぶりの快挙です。また、三月二十八日から愛知県名古屋市中で開催される「第四十回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会」に関東地区代表として出場も決まりました。全国大会に向けて、さらにがんばっていききたいと思っておりますので、応援よろしく申し上げます。



◆ ◆ 校 史 と 校 章 ◆ ◆

須賀学園は、昨年11月3日で創立114周年の記念日を迎えましたが、その4年前には創立110周年を記念して式典や演奏会、学校祭、大学祭が開催され、本学園の教育実践の全容を広く内外に示すことができました。

思えば、本学園は、明治33年(1900年)に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学(音楽科)を新設し、現在の宇都宮短期大学附属高等学校となりました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校(中・高6か年一貫教育)を併設され、宇都宮共和大学の開学、宇都宮短期大学の学科増設、須賀学園教育会館および第2グラウンドの新設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

本校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉(本誌の巻頭を参照)の意味は、本校生徒の一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章は、カタカナの「ス」の文字を3個組み合わせさせて図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。(合印とは、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その背に負って、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。)これは、須賀家の家系譜からデザインして第2代校長の須賀友正先生が校章と定められたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしており、いかにも清潔な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。

高文祭写真展 奨励賞



スマイルトレイン
2年1組 小池 眞由子